

山村における婦人労働の役割(1)

— 福岡県矢部村の調査から —

九州大学農学部 瓜生恵美子
八尋 宣子

1. はじめに

木材需要ののびなやみから木材価格の低迷などによる山林労働の停滞などで山村の経済情勢，社会情勢は大きく変わってきている。それにつれて婦人労働のあり方も変わってきていると思われる。その実態を福岡県矢部村についてみてみたいと思う。

矢部村は福岡県南部の有名な八女林業地帯の最奥地に位置し，大分，熊本県境に接し，林野率85%の山村である。

1967年に本大会で発表した矢部村の報告に引続き，本年現地調査を行った現況を報告する。

前回の報告で，矢部村は生産の低い耕地を保持しながら，現金収入の場を求めている。世帯主の不安定な収入だけでは家計を支えるに十分でなく，婦人に対する労働力負担はますます大きくなり，その度合は経営規模の小さい農家はどきどきしいものがあることを明らかにした。

2. 農林業センサスから見た集落の変化

調査集落である矢部村日出，臼ノ払，古野，中村の各集落の農家数は，臼ノ払，中村集落は矢部村の変化と同じように，この20年間大きく減少したが，日出，古野集落の変化は少ない。

表-1 専兼業の変化 (単位 戸)

項目 集落名 年次	総農 家数	専兼 別農家数			自営 兼業 農家	雇用兼業 農家		
		専業	第1種 兼業	第2種 兼業		恒常的	日雇 臨時	
矢部 村	60	557	35	282	240	106	102	241
	70	514	32	213	269	112	104	266
	80	161	39	131	291	66	104	252
日出	60	14	7	7	—	—	—	7
	70	14	1	10	3	7	1	5
	80	13	2	8	3	4	—	7
臼ノ 払	60	34	1	24	9	9	—	24
	70	32	2	7	23	3	3	24
	80	26	1	7	18	1	3	21
古野	60	14	1	11	2	12	—	1
	70	13	—	5	8	1	—	12
	80	13	—	11	2	—	3	10
中村	60	19	1	10	8	6	—	12
	70	16	—	4	12	2	8	6
	80	12	—	1	11	—	3	9

注) 農林業センサス

しかし，表-1のように専兼業の変化は各集落とも専業農家が減少し，第2種兼業農家が大巾に増加している。しかも自営兼業(主として自営林業)の減少と，日雇，臨時雇の兼業が増加し，農家収入の不安定化の傾向が顕著に出て来ている。

矢部村の耕地割合3.6%と少ない山村であり，山林の村外所有が大きい部分を占めている村であるため，耕地の拡大が制約されているが，日出，臼ノ払集落では表-2のように，茶栽培が進んでおり，リンドウ，ユリなどの花きの栽培が軌道に乗っている。しかし古野，中村集落では，農業経営は水稲が中心で茶栽培に進展が見られる程度である。

このような集落の現況の中で，婦人労働はどのように変化したか明らかにしたい。

女子の就業状態の変化は，表-3のように16歳以上の女子の減少-若年層の村外流出-とともに自家農業以外への従事-兼業への就業-が増加しているが，農業に意欲的に取組んでいる日出，臼ノ払集落では自家農業への就業割合が高く，経営耕地の少い古野，中村では他産業への就業割合が増加している。

このように集落別に2つのタイプに区分することが出来るが，矢部村では就業機会としては，森林組合と縫製工場(従業員40名)があるだけで，村外山林所有者の伐期延長による伐採・育林作業など山林労働の減少とあいまって，若年労働者の村外流失(村内からの

表-2 経営耕地と収穫面積の変化 (単位 a)

項目 集落名 年次	経営 耕地 面積	作物種類別収穫面積					
		計 (%)	稲	茶	野菜	花き 花木 種苗 苗木	
日出	60	1,630	—	1,040	170	170	—
	70	1,920	1,755	1,100	290	140	—
	80	1,854	1,788	902	670	94	53
臼ノ 払	60	1,650	—	910	90	210	—
	70	1,620	1,660	910	160	130	8
	80	1,352	1,162	672	305	99	13
古野	60	580	—	400	30	70	—
	70	740	688	420	90	40	—
	80	743	572	433	117	18	—
中村	60	860	—	550	40	80	—
	70	830	708	540	50	50	—
	80	640	571	405	124	6	—

注) 農林業センサス

表-3 女子の就業状態の変化(16才以上)

単位 人:(%)

集落名	項目 年次	計	就業状態				
			自家農業 だけに 従事	自家農業とその 他の仕事に 従事(自家農 業が主)	その他の 仕事に 従事	仕事に 従事し なかつた	就業 状況
日出	60	(100) 39	(74) 29	(14) 4	(3) 1	(23) 9	
	70	(100) 29	(69) 20	(7) 2	(7) 2	(10) 3	
	80	(100) 23	(65) 15	(4) 1	(9) 2	(9) 2	
白/払	60	(100) 70	(74) 51	(1) 1	(-) 0	(4) 3	(21) 15
	70	(100) 60	(42) 25	(27) 16	(12) 7	(5) 3	(15) 9
	80	(100) 48	(35) 17	(10) 5	(27) 13	(4) 2	(23) 11
吉野	60	(100) 28	(82) 23	(-) 0	(4) 1	(-) 0	(14) 4
	70	(100) 26	(57) 15	(23) 6	(12) 3	(4) 1	(4) 1
	80	(100) 21	(52) 11	(19) 4	(19) 4	(-) 0	(10) 2
中村	60	(100) 38	(66) 25	(3) 2	(5) 2	(3) 1	(21) 8
	70	(100) 35	(40) 14	(3) 1	(23) 8	(14) 5	(20) 7
	80	(100) 17	(24) 4	(12) 2	(52) 9	(-) 0	(12) 2

通勤もあるが)が著しく、山林、耕地など生活基盤が弱い農林家は、挙家離村へ動いている。

3. 調査農家の実態

各集落各2戸の調査農家の概要と労働状態は表-4で示しているが、田、畑、山林の比較的多い日出集落の農家は自家農林業への労働力投下が多いが、他の農家では男女とも他の産業への就業が多い。このため自家農林業の仕事は休日又は朝夕の仕事となり、水稻の植付収穫は休暇を取って行くなど、現金収入を他産業に求めている状況となっている。しかも、村内での労働力の消化が出来ず、他市町村の仕事場で働くなど就業時間が増加していることが聞取調査の結果明らかとなった。このため、農林家の婦人は、自家農林業地と仕事と、そして家庭の仕事に追われ、多くの集落で婦人部活動も低調になっている。

次に転出した家族(1967年の前回調査以降に限定)は、表-5であるが、第1の特徴は次・三男の村外への転出である。それも高校入学の時から八女市などに下宿し、高校卒業とともに他地域、八女経済圏の外に就職し、結婚して独立した家族を構成し、矢部村の家は単一家族となることである。第2は女子の八女経済圏での婚姻が少ないことである。それ故、嫁不足の現象となっている。第3に1戸ではあるが長男の他地域への就職で、経済基盤の低い農家では、この型での挙家離村のケースとなるであろう。

4. おわりに

農林業センサスの集落カードによる20年間の変化の分析と、農家調査の結果、いえることは、森林組合の

表-4 調査農家の概要と労働状態

農家番号	集落名	所有土地(0.1ha)		世帯主		世帯主の労働力	世帯主の性別	世帯主の年齢	自家農林業	常雇	日雇		
		計	田	畑	総数								
1	日出	23	13	(8)	50	5	2	2	世帯主	52	200	-	
									妻	49	150	-	
									長男	26	200	-	
2	日出	24	18	(5)	15	5	1	1	長男	26	200	-	
									長男	45	250	-	
									長男	42	250	-	
3	白/払	6	3	(3)	15	5	2	1	世帯主	58	200	-	
									妻	39	180	-	
									長男	27	4	250	-
4	白/払	6	3	(2)	11	5	2	1	世帯主	48	90	150	
									妻	44	100	100	
									長男	20	-	250	-
5	吉野	3	2	(1)	-	1	-	-	妻	42	100	150	
									世帯主	49	50	200	-
									妻	47	30	220	-
6	吉野	6	4	(1)	6	5	2	1	妻	48	50	250	
									妻	36	100	-	
									妻	57	30	-	
7	中村	3	2	(0)	3	4	2	1	世帯主	50	30	250	
									妻	48	50	250	
									妻	36	100	-	
8	中村	3	(0)	-	2	1	1	1	世帯主	60	80	150	
									妻	57	30	-	
									妻	57	30	-	

表-5 1967年以降の転出家族

農家番号	集落名	世帯主	転出時の		転出の動機	転出先	現在の職業	
			年齢	年齢				
1	日出	3男	45	30	分家	矢部村内	5年前死亡	
			5男	45	28	養子へ	佐賀県	左官業
			長女	47	18	高校卒一就職	福岡市	主婦
2	日出	次女	54	18	〃	福岡市	店員	
			孫	58	18	就学	筑紫野市	専門学校在学中
			次男	48	15	就職	小倉市	工員
4	白/払	長女	56	18	〃	〃	バス会社	
			長女	54	18	〃	久留米市	看護婦
			兄	26	16	他出	八女市	S57死亡
6	吉野	長女	53	15	就職一結婚	奈良県	なし	
			次女	55	15	就職	春日市	店員
			長女	50	15	高校一就職	福岡市	事務
7	中村	次女	52	15	〃	〃	病院勤務	
			3女	53	15	〃	〃	看護婦
			長男	39	15	高校一就職	久留米市	電気工事
8	中村	次男	42	15	高校一自衛官	〃	入院中	
			3男	51	18	就職一自衛官	熊本市	自衛官

中の婦人労働班が、小径木の加工、木工芸などに婦人を雇用し、昭和50年には2人であったのが昭和59年調査時には16人へと以前より雇用の場が増えてきている。茶、花きなどの換金作物に積極的に取り組み、村内での婦人労働の消化をはかっていることは、山村の不安定で低賃金のなかでの大きな役割となっていると思われる。なお、嫁不足を解消し、青少年の離村をくいとめるため、適切な行政機関の施策が必要である。